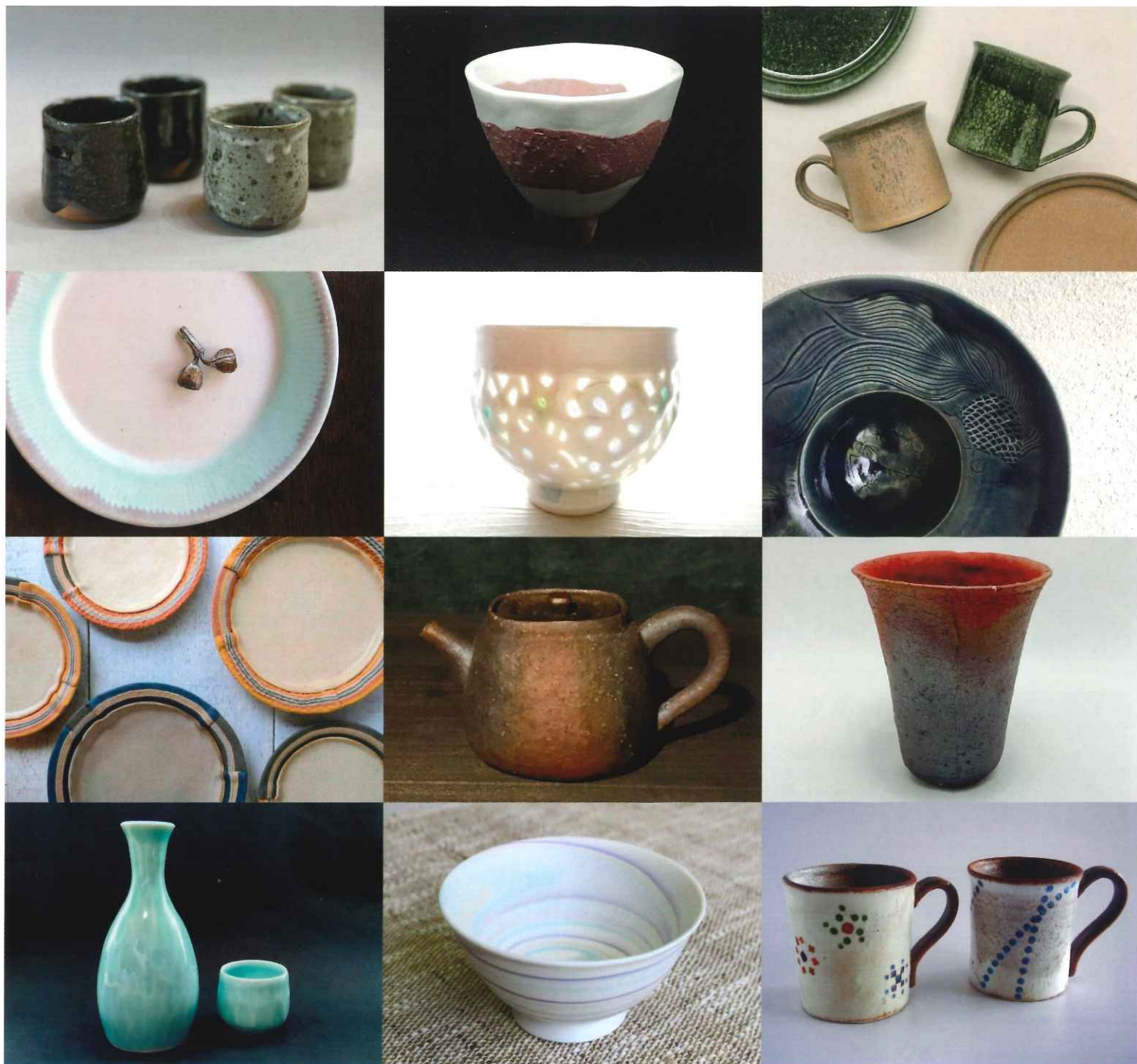


第10回 十二人展



2022.

入 場 無 料

10.7[金]~10[月・祝] 10:00~17:00

セラミックパーク MINO 1階 小会議室 岐阜県多治見市東町 4-2-5

多治見近郊の若手陶芸作家十二人の作品を展覧し、その場でご購入いただけます。

主催：十二人展

共催：公益財団法人セラミックパーク美濃

お問合せ先：050-5327-9304(十二人展事務局 旭)

CERAMIC
VALLEY
Mino
Japan

十二人展は、2018年から毎年4月・10月に開催し、今回で10回目となります。若手陶芸家の作品発表の場として、毎回少しずつメンバーを入れ替えながら、総勢39名の作家を紹介してきました。

今回から場所も新たに、セラミックパーク MINOでの開催となります。

作家も常駐していますので、ご来場の上、ご感想など聞かせていただけたらありがたいです。

作家紹介(アイウエオ順)



旭 守男

山から掘り出したままの原土を、石粒などをふるい分けるだけでそのまま使っています。色んなものが混じり合って、土が自然な表情を見せてくれます。



足立 喜子

異なる土を使って色の違いで模様を表現した器を制作しています。ひとつひとつ異なる表情は唯一無二です。



安藤 美和

使いやすいシンプルなデザインと、日常に溶け込むアースカラーが特徴です。釉薬の透け具合により様々な色や表情が生まれ、黒土との相性が良く重厚感のある仕上がりになっています。



影山 誠

窪みに色釉を流し込んで焼成する技法をメインに制作しています。色の組み合わせにより、楽しくも神秘的にも様々な表情に変化するのが面白いと思います。



河合 里奈

蛸手の技法を使って、色付きの蛸手のうつわを作っています。



小林 由昂

素朴な土肌の内に秘める温かさ、荒々しさ、静けさなどの様々な表情が、器というかたちとの関わりの中で趣きや愛嬌となり、作品がより息づくことを目指しました。



杉山 亜花莉

色味の楽しさとテクスチャーの面白さを感じて作っています。最近は主に布目をつけた器を制作しています。



古田 博世

白磁土に色土を練り込み主にロクロで成形して作品を作っています。食事の時間が楽しくなる「生活に彩り」をコンセプトに器を作っています。



宮田 淳史

一滴の玉露に魅せられ、急須などの煎茶道具の製作をしています。雅やかではありませんが、常に身近に置いておきたくなる様な、愛らしい作品を生み出していきたいと思っています。



森田 愛子

鎚や線刻のシンプルな模様と、鉄や銅が淡く発色した色釉の器です。手に馴染む柔らかい質感の釉薬にこだわって作っています。



吉田 庄吾

焼き物の様々な表現を模索しています。流れる釉薬の色や焼締めた土の質感など、焼くことで様々な表情を見せてくれます。その変化を楽しんで頂けたら幸いです。



和田 暁生

陶磁器は美しいです。その美しさに気付いたらあっという間に食器棚は美術館になります。毎日使って毎日眺めて、豊かで楽しい毎日が始まります。

ACCESS

会場では、マスク着用、換気、消毒液などの対策をしています。

お客様へのお願い

- マスクの着用、入場前の手指の消毒をしてください。
- 発熱や咳などの症状がある方はご来場をお控えください。



[自動車をご利用の場合]

- 中央自動車道 多治見ICから約10分、土岐ICから約15分
- 東海環状自動車道 土岐南多治見ICから約5分
セラミックパーク MINO 無料駐車場 312台

[電車をご利用の場合]

- JR中央本線 名古屋駅→多治見駅(快速約35分) タクシーで約10分

[バスをご利用の場合] JR多治見駅南口より発車

- 東鉄バス 妻木線、瑞浪=駄知=多治見線 (南口3番乗り場)
多治見駅発 平日 9:00 9:25 11:15 12:10 12:20 13:20 15:45
土・休日 9:30 10:40 11:40 12:30 13:40 14:45
セラパーク・現代陶芸美術館下車(約12分) さらに徒歩15分

- ききょうバス オリベ観光ルート(土日祝のみ)(南口5番乗り場)
多治見駅発 9:10 10:10 11:10 13:10 14:40 16:10
セラミックパーク MINO 下車(約23分)